

あなたのそばへ

南区支部 村上 まり子（妻）

戦没者 村上 松世

戦没地 南東方方面海上

今年の八月十五日は六十五回目の終戦記念日でした。想えば随分長生きしたものだと思っています。玉音放送が流れて戦争の終結を知り、何も判らぬ失意の中、ただただ親子四人無事に生きてこられたことに感謝です。

私は、昭和十二年職業軍人だった夫と結婚して、三人の子供に恵まれました。親子五人での水入らずの生活は出来ませんでした。

昭和十八年十二月八日に南東方方面海上にて戦死したとの知らせが、身重の私の許に届きました。翌十九年一月に灯火管制の厳しい中、親兄弟家族の手助けで、無事三人目を出産することができました。この時生まれた、父の顔も知らぬ娘も六十六歳となりました。

今は、その娘の家族と一緒に暮らしております。戦争中は、子供も小さく家の中で世間知らずのまま暮らしておりました。新聞の報道も、日本は必ず勝つ、日本は強いとの報道ばかりで、現実とはどんな状況かなんて判らぬままに、報道を信じて過ごしておりました。

夫は海軍だった為に、日本各地の軍港のある地域への出張や移動等で留守がちであり、軍の秘密事項は口外することは出来ず、辛い立場であつたろうと思っています。そして、出征の時さえも家族には知らされず、いつ出征したのかさえ判らないままでした。そして間もなく、戦死の公報が届き、夫の最期、無念の死を受け入れざるを得ないことになりました。玉音放送が流れ終戦となり、徐々に復興が始まりました。私達幼子を抱えた母子家庭は途方に呉れるばかりの日々でした。幸いに、兄達が元気だったので何かと助けてもらい、飢え死にすることもなく生きてこれました。多くの人や物も失い、人の心さえも荒んだ傷だらけの貧しく惨めな日本でした。

平成六年、夫の五十回忌法要を催すことになり、戦没地の南東方方面が八丈島沖辺りに当たるとのこと、八丈島にて、私共家族と共に、夫の姉、私の弟夫婦の十人にて般若心経を唱えて供養しました。心が穏やかになってゆき、何かの重荷とか、責任とか、世間の目とか、全てから開放されて、物事を前向きに捉えられる様になりました。つらいのは自分だけでは無いんだ、世間には私以上に辛い人達が沢山いるのだ、と、そう言うことに想いを馳せる心境の変化が現れました。

お陰様にて健康に恵まれ、八人兄弟姉妹唯一人の生存者となりました。今は、ただ、夫や父母兄弟姉妹の元に逝くことだけです。早く迎えに来て下さい。と毎日祈っています。

世の中には、まだまだ戦争をしている国があります。戦争は、憎しみや絶望とか、不信任等を植え付けるだけ、人間形成には何の役にも立たず、自然破壊をもたらすだけです。

日本は、二度と戦争をしないと法律で守られている訳ですから、恒久平和を貫き通して欲しい

と切に願っております。

私は、もう靖国神社にも参拝出来ぬほど、体が弱って来ましたが、子供達が私の分まで硫黄島等への参拝に参加し戦没者の方々の供養をしてくれているのが何よりの救いです。

英霊の方々が何よりも願っておられることは、残された家族の末永い安寧であり、祖国の安泰を信じて国難に殉じられたことを忘れず、英霊を惑わすことのない日本国の確立と、世界平和のために見守り続けて下さい。と祈るのみです。